

町政を問う

一般質問
8議員



月尾純一朗議員

地域における循環型社会 形成の取り組みについて 町長／環境保全にしっかりと取り組む

循環型社会形成推進基本計画の取り組みが進められる中、環境と共生するまちづくりという観点から、①大津町環境向上基本計画を策定する考えはないか。②排出される多量の生ゴミをバイオガス化して、電気や熱として活用していく方法は考えられないか。

地球環境との共生を施策の柱として自然循環型社会形成など4項目を掲げている。現在、環境モニター「家庭の活用も行って

いる。今後については、バイオマス関係の利用も検討していく大事な時期ではないかと考える。



バイオマス資源化センター（大分県日田市）

いじめ対策の 積極的な推進について

教育長／いじめ根絶は重点事項

ますます深刻化するいじめ問題への対応が急がれる。①第三者機関として「オンブズパーソン制度」を取り入れる考えはないか。②親教育プログラム制度の取り組みの考えはないか。③生徒の有志がいじめ根絶を目標に結成する「君を守り隊」という活動がある。取り

組む考えはないか。

宮崎教育長

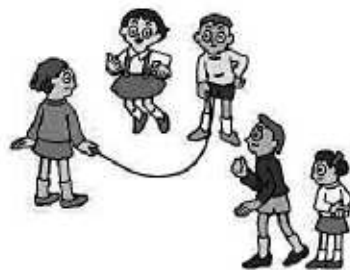
いじめ根絶、不登校の減少は、重点事項として取り組んでいる。現在実施している相談活動事業の拡大、白立支援教室（適応指導教室）の新設など全力で取り組んでいる。親教育プログラム制

まちづくり専門課の 設置について

町長／地域の皆さんとともに幸せなまちづくりを

まちづくり協議会の設置が進められている。少子高齢社会の進展や元氣大津の更なる発展を願うとき、その取り組みが一部の地域に限定したもの

ではなく、町全体に広げるべきではないか。町にまちづくり専門課の設置の考えはないか。



みんな仲良く

度は、各地域で広がっている。
「君を守り隊」は各学校に紹介し、生徒独自の活動が実践できるよう考えていく。

職員が地域の中に入り、皆さんの考えをしっかりと捉えながら、一緒にそこに住んでよかったと思える幸せなまちづくりをしていきたいと考えている。地域のリーダーづくり、人材づくりを目指している。今までの地域づくり推進室を企画政策課内に配置替えをし、そこで支援をしていく。

家入町長



新開 則明議員

クリーンエネルギー対策 を問う

町長／地球温暖化防止に

クリーンエネルギー対策の内容や先進地を公開して、生活面・技術面・実用性を提示していくべきではないか。休耕地や減反にエネルギー作物を

推進できる取り組みが必要ではないか。又バイオディーゼル燃料・廃食油の再利用の普及を目指すべきではないか。

家入町長

大津町独自の補助制度を立ち上げ、太陽光発電の普及・促進し町の広報やホームページで知らせていく。エネルギー作物に対しては、多種多様な課題を検討する。バイオディーゼル燃料は現在捨てられている廃食油の回収を行い、公川車などに再利用できるように検討していきたい。



平成19年10月に本格的な操業を予定されている
株ホンダソルテック（本田技研工業㈱熊本製作所内）

イベント・祭りの 行事に活力を

町長／活気ある行事に

家入町長

イベント関係の皆さん等と曲なり遊びながら検討する。相撲の土俵については顕彰会や相撲関係・教育委員会とも相談していく。体験コーナーも今後もイベント・祭りの中で取り組み、まちづくり事業の中でも検討していきたい。

岩戸の里と 南郷往還を問う

町長／地域計画としても

家入町長

林野庁や文化庁と相談しながら開発し立野ダム関連等も今後の検討課題である。又、文化振興の

意味で大津南部地域の散策マップを検討しPRもやっていかなくてはならないと思う。

岩戸の里から足を運び、自然に恵まれた北向谷原始林を観察できる遊歩道が望まれるのではないかな郷往還について位置図や説明板及びコースの最

小限の確保が必要ではないか。又、岩戸の里を中心とした付近の設備や史跡を紹介し、活性化を図るべきではないか。



南郷往還の案内標柱



下町の元横綱不知火光右衛門像



郡市中体連大会で優勝した大津中女子バレーボール部（左コート）

義務教育と

部活動について

教育長／実態の把握に努め指導・助言したい



永田 和彦議員

①県大会や全国大会へ出場確率が高いという理由で町の予算を組んだ部がある。
ある意味これは他の部に対し可能性を否定した数値化だ。

問題は能力不足の顧問や監督の実態を把握し適切指導できていない教育委員会だ。

②国の教育再生会議では、教育免許更新制や土曜日の授業再開の議論がなされているが国の判断を待つのが最も下策だ。町独自の教育政策をお聞きしたい。

③赤ちゃんポストの意義をどう生徒たちに理解させるのか。危険性を多く含んでいる。

宮崎教育長

①質問の部活動に関しては2年連続九州大会出場ということ、また交通費等の関係もあり本年度は初めに予算をお願いした。決して他の部活動の可能性を否定しているものではない。

部活動は非常に教育的価値が期待できるものであり生徒の興味や関心、能力や適性、そして自主性を無視したような監督や顧問ではないけない。実態の把握に努め、校長を通して指導・助言をしていきたい。

教育委員会が必要か？

町長／卒業認定は最終的に校長判断

②町独自の教育政策は、町教育の日の制定、前期・後期制の完全実施を幼稚園から県立高校まで賛同をいただき実施している。学校参観に来られた方々の意見を聞き、学校運営に生かし、授業改善や教育環境の改善等に生かしている。前期・後期制も現在では軌道に乗り、行事や教育課程の見直しにより、体験学習の

充実や学力向上にその成果が見えつつある。
③赤ちゃんポストの件で子どもたちを学習させることは、基本的には、命は尊いからこそ、自分の子どもは死にもの狂いで自分で育てる、それが当たり前のことであり、正しい性教育と命の尊さをしっかり子どもたちに学習してもらいたいと思っている。

教育委員会制度は、以前からその形骸化が指摘され、活性化論と廃止・縮小論が展開されてきた。中学校の現状を観察すれば無理もない、長期欠席者17年26名18年52名だ。必要性を疑うのは当然だ。



教育委員会の学校訪問

家入町長

教育委員会は現行の教育制度では国民の教育として必要な水準の維持と向上という観点からしても意義あるものだ。授業を受けてない生徒への卒業認定については、学校教育法施行規則により、校長の権限となっており、認定時に出席日数は大きな判断材料になると思うが、明確な規定はない。本人の将来性、保護者の意思や担任等の意見も十分参考に最終的には校長が判断したものだ。
町教育委員会としても、校長の判断を尊重したというところである。



荒木 俊彦議員

多重債務者の 相談窓口を

町長／人を配置し体制をとる

利息制限法を越えるグレーゾーン金利が制限される方向になってきたが、まだまだ多重債務に苦しむ人がたくさんいる。国も、多重債務者について相談窓口設置を打ち出している。役場のセクションの中で、専門的知識を備えた担当窓口を設けるべきではないか。

家入町長

役場での相談は、昨年7件ほどしかないが県の消費生活センターでは、大津町の方が毎年300人以上利用されている。

今回、まちづくり交付金事業の関連で、障害者の方だけでなく、福祉全般的な相談コーナーに専門的な人を配置し相談体制をとっていく。

要介護認定者に 障害者控除全員適用を

町長／近隣市町と協議する

この6月から定率減税が廃止され住民税が増税される。また非課税措置がなくなり、国民健康保険税や介護保険料も引き上がる。こうした高齢者の負担増に胸が痛まないのか、とりわけ介護保険で要介護、要支援に認定された方々に、障害者控除の全員適用をするべきではないか。

松永健康福祉課長

19年3月末65歳以上の要介護認定者数は873名。うち要支援1が74名、要支援2が134名。

障害者控除の適用の周知徹底を図った結果、11件の認定書を交付した。

家入町長

今まで非課税だった方々について、町民税が新たに生じてくるのは確



役場相談コーナー

かである。

要介護認定者数873名のうち本人課税の方が117名おられ、今回の税法改正で本人課税の方が増えると思込んでいる。今後の課税状況などを見極めながら、菊池市や台志市、菊陽町と十分協議しながら、問題点、課題を検討していきたい。



低所得世帯の 保育料が高い

町長／税の動向をみて検討する

4月から保育料を引き下げられたことについては敬意を表したい。

しかしながら、まだ所得の少ない世帯の保育料金は、合志市や熊本市と比べて高い。例えば第2階層の3歳未満児の保育料を見ると大津町が8000円、合志市は7000円、熊本市は4500

家入町長

町でも4階層までの状況は把握している。4階層まで147名のうち丸々保育料を払っておられる方は74名であり、その他は軽減がなされている。

町は、国の基準より保育料金を抑えて、それ相



親子で仲よく

円である。

県民の生活実態調査という新聞報道によると、世帯の年収が300万円以下が25%を超え4世帯に1世帯は300万円以下である。今の若い世帯の中で、夫婦で働いても2人合わせて年収が400万円に満たない世帯も結構ある。

所得税の基準によってこの階層が決まるが、所得税から住民税への税源移譲によって、今後はこの所得税が下がるので、町の負担は、国の基準からさらに増えることになる。今年の税関係の動向をみて、検討を再度しなくてはならないと考えている。

住宅地を流れる 農業用水路の管理について

町長／町・土地改良区、水田の受益者の責任

大津町中心部には、上井手から取り入れられた水路が張り巡らされている。本来、農業用水路だが、周辺が住宅地となり、現状としては生活用水路と化している。

場所によってはヘドロがたまり、悪臭がする。大雨の時は道路へ水が吹き出すこともある。

①管理者はだれか。
②水があふれ民家に被害を与えた時、だれが責任を取るのか。



セキの開けしめ（水の管理）はだれがするのか

①里道・水路の設備については町が管理している。農業用の水の利用、管理は大津土地改良区、



坂本 典光議員

及び利用水田の受益者が行っている。

②防災は町の方でしっかり管理し、住民の財産・生命をしっかりと守っていかなければならない。しかし町だけで管理できるものではない。まずは大津土地改良区、水田を持つ受益者がしっかりと水の管理をすべきである。また地域住民も協力しなければならぬ。

ジャスコ周辺で （商業地の活性化）祭のイベントを

町長／考えている

大津バイパスとジャスコ周辺が新しい商業地域を形成している。大津町発展のためには、今後ここを活性化させることが必要である。

町長は、「明日の観光大津を創る会」の会長でもある。

つつじ祭り、地蔵まつり、からいもフェスティバルのイベントを持ち込むべきではないか。

つつじの花 来年は大丈夫か？

町長／今年は異常気象で花が少なかった

①イベントの開催については、「明日の観光大津を創る会」でいろいろ考えている。菊陽町にもサンリー寿屋を引き継いでジャスコができています。

一時は大津のジャスコは撤退するかもしれないといううわさがあつたが、幸いにして菊陽よりも大津の方を残したいようなお気持ちのようです。

今後ジャスコを愛し、また地域住民の皆さんに愛される店となるように、周辺整備が必要と思う。

今年（今年）の1月、2月は気温が高かった。逆に3月4月は気温が低かった。異常気象で、花の咲く前の花芽が落ちたのではないかと考える。

また春先に害虫が多く発生した。消毒はしたが花芽をその害虫に食われたのではないかと考える。これらは管理している業者の共通した意見である。ヒラドツツジの咲きが悪かった。それはヒラドツツジが寒さに弱いからだと思われる。

いずれにしても今年の管理は徹底をしていきたと考えている。

大津町は「日本一のつつじの里」づくりを進めている。

今年のつつじは咲きが悪かった。（昭和園、日吉神社、大松山）

原因は分かっているか。



鈴木ムツヨ議員

放課後の子どもへの 支援対策は

教育長／今年1年は条件整備を

放課後子どもプランは、文部科学省の放課後子ども教室推進事業と、厚生労働省の放課後児童健全育成事業（学童保育）の2つの総称で、すべての小学校2万箇所で実施を目指すものとされるもの。このプランが実行されると週2～3回午後5時位まで学校に残るようになる。小学生は1年～6

年までかなり体力の違いがある。更に勉強も教える事になる。学校嫌いが増えるのではないか。ボランティアや指導者の確保、先生達への依存、冬場下校時の対策は、室小・大津小で縦の関係で遊べる状況を作りたいという趣旨は、どう組み合わせられるのか。

学童保育はおやつがあり指導員が宿題をみたり遊び相手をし保護者が迎えに来られるのをチェックしている。利用生徒はおやつ代を払っている。2つの組み合わせはとても無理があり作らなくてもいいのではないか。

宮崎教育長

取り組む方向で検討。希望者全員を対象に受け入れる。県の実項では下校時の対策が考えられていない。学習指導は緩和され大学生や教職OBでも良いことになる。しかしすぐに対応できるだけのボランティアが集まるかどうか等もありしっかり条件整備していく。



ウォーキングマップ（北部コース）

ウォーキングロードの整備と ウォーキングマップの作成を

町長／作っていききたい

ウォーキングは、何の気兼ねもなく、気楽に付きあえる運動として、人気ナンバーワンである。北部・中部・南部に分け名所旧跡を取り入れ通学路の整備も兼ねたものであれば子ども達との交流もあり、大変有意義である。取り組む考えは。

ウォーキングは、何の気兼ねもなく、気楽に付きあえる運動として、人気ナンバーワンである。北部・中部・南部に分け名所旧跡を取り入れ通学路の整備も兼ねたものであれば子ども達との交流もあり、大変有意義である。取り組む考えは。

家入町長

マップは北部地区だけある。中心部や南部も作りたい。道路整備も進んでおり、文化財を兼ねたウォーキングも楽しみたい。健康づくり推進計画と健康づくりに対する相談コーナーに取り組む。

少子化対策と 母子家庭への支援は

町長／相談コーナーを充実

合計特殊出生率が06年は1・32と上昇したが、産む世代の女性人口が減少しているのだから赤ちゃんの出生数は過去2番目に少なかった。政府は抜本的な少子化対策を急ぐ方針とある。治療を受けて出産された方が沢山おられるが多額の費用が必要である。母子家庭に支給する児童扶養手当も減額される。生活保護の母子加算も19年で一部廃止、21年で全額廃止になる。県は限定で不妊治療助成がある。町の支援策は考えられないか。

家入町長

不妊治療費に係る費用助成は県の事業です。不足分を検討する余地もあるのではないかと思います。生活保護の母子加算が廃止され、また児童扶養手当も減額となる。

加算も含めた保護基準は中位の所得の母子世帯消費水準と比較しても高く、加算は妥当とは言えない。（専門委員会）支給要件や支給金額が見直される。相談コーナーをしっかりと充実させて保健師の方で検討していく。



総合体験学習の 実態を問う

教育長／3年生以上が体験



手嶋 靖隆議員

人間と自然文化のふれあいを通じて、児童、生徒の豊かな人間性を養う体験学習により、充実した豊かな心と実践力を身につける人間形成の上で、総合体験学習は、当然重視すべき教育課程である。今後の構想と取り組みの実態について教育長に伺う。

宮崎教育長

これまでの学校教育は全国画一に学校の現場において実践されてまいりました。行政は時代の変化に対応し地域の実情に沿った創意工夫をし、変化しつつある中にも現実には青少年の非行、いじめ、家庭内での暴力など、親子の連帯意識が希薄となり、深刻な社会問題と発展してまいりました。その原因は、詰め込みの教育と塾通いの教育とが、心にゆとりのない教育にあるのではないかと、また、

14年に総合的な学習の時間が本格導入された。目的は、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることである。内容的には国際理解、情報、環境、福祉、健康、地域、文化等、生活の興味関心に基づく課題を地域や学校の特色に応じて、自然体験や、ものづくり、

ボランティア、社会体験、観察実験、発表や討論、様々な手法で、積極的に問題を解決していく学習である。本格導入して1年が過ぎた。大津町子どもたちは、この総合的な学習の時間を、生き生きと活動している。今後、小中学校ともに時代に合った大切な学習として、力を入れていきたいと思う。

公園整備と遊休地の 活用を問う

町長／半数以上が地域で管理



きれいに植わったかな（大津東小田植）

家入町長

現在、公園の現状を見ると概ね手入れができていて管理も良好で十分活用されている。
しかし美咲野中央公園内の芝生の土砂の流出跡の補修整備がされていないので、土砂の流出が拡大しないように早急に点検整備に取り組んでいくべきである。また、本町は、つつじの里づくり日

本一を目指している中、団地南登坂道路沿いの公園と右側の遊休地につつじを植栽していないので環境整備の一環として必要と思う。また、児童生徒の通学沿いの公園に夕立などの一時休憩に施設を設置し、福祉、環境美化の一体化を図ることが肝要である。

本町には都市公園が10と町公園が6箇所、それに各部落の鎮守の森、広場を合わせると80以上の公園がある。特に地域における鎮守の森、広場関連等で半数以上が地域の方で管理運営されている。行政として地域の皆さんと一緒に、皆さんが一緒になって地域担当職員を配置して意見交換し、地域の皆さんと財政的問題等を検討しながらやっていただく、それが地域の役割であり大津町に住んでいる責任と義務だと思ふ。



美咲野公園登り口

し、支援がどの程度までやれるのか、何を地元で協力していたのかを検討して今後、管理運営に努め区長、地域担当、専門家等、しっかりと相談しながら進める。

担当課と十分協議



藤森昭二朗議員

2・3年前から県との相談をしている。道路の拡幅、歩道橋の改築等交差点改良計画の中で問題を解決していかなくてはならない。県に願います。

家入町長

大津中学校前の県道から国道57号線までの車の渋滞がひどい。早急な解決を図るべきではないか。①与えられた条件で右折レーンの設置を。②大津高校裏より県道矢護川熊本線との連結を。③ベスト電器東側の道路の整備を。

大津中学校前の県道の

車の渋滞について

町長／検討しながら進める

るもの、町独自でやるもの、等財政的な問題もあるので、検討をしながら、やれるものからやらなくてはならない。町の交通体系等も十分に検討し、計画をしていく。県道西

鶴中井迫線の陣内方面への延長など南への道路渋滞の解決を考えている。



大津バイパス香梅前交差点

小中学校の各学級に 新聞コーナーの設置を

教育長／図書室には常時配置して

いる

町内の小中学校を見ると子ども達が自由に新聞を読めるコーナーが少なくないと思う。子ども新聞、農業新聞、スポーツ新聞、全国紙、地方紙等いろんな新聞がある。休み時間、昼休み時間、放課後等、気分転換に勉強に、人間形成に必要ではないか。

室崎教育長

休み時間等に新聞を読んでも、それを教師と児童・生徒が互いに話し合うことは望ましいと思う。しかし、一概に休み時間を全部の子どもが新聞でというのは無理がある。ただ、新聞自体を教育の中に取り入れていく

ということでは大切だと思ふ。全国的には、高校生を対象に新聞を教材にするNIE教育という考え方を推し進めている教師集団もある。大津町では、朝の視写の時間の中で新聞の記事を書き写すという活動をしたり、各教室では新聞係が今日の記事でよかったものを切り抜きして貼ったり、朝の会で発表したりしている。

町には五十数ヶ所の公園がある。美しく保つために草には除草剤をかけ、木には消毒をしている。そこには小鳥の餌となる虫も住んでいるため一時は絶滅の危機となった鳥もいる。自然は循環している。自然環境に配慮し、小鳥も住み易い公園の管理を目指すべきではないか。



花と緑の昭和園

公園の植木の消毒

について

町長／大津町は自然環境保全の町

家入町長

公園は住民の野外における休息や観賞、遊戯や運動、その他レクリエーションの利用に供するとともに都市環境の整備及び改善、災害時の避難等に資するもの。自然環境を保護するという立場でできるだけ農薬関係等を使わない方向で、自然の力で生きていける土壌も今後検討していきたい。